

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-315149

(43) 公開日 平成9年(1997)12月9日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 0 J	3/02		B 6 0 J 3/02	R
G 0 2 B	5/08		G 0 2 B 5/08	Z
	5/22		5/22	D

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平8-133151

(22) 出願日 平成8年(1996)5月28日

(71) 出願人 596074627

加藤 靖之

大阪府大阪市港区市岡3丁目18番2号

(72) 発明者 加藤 靖之

大阪府大阪市港区市岡3丁目18番2号

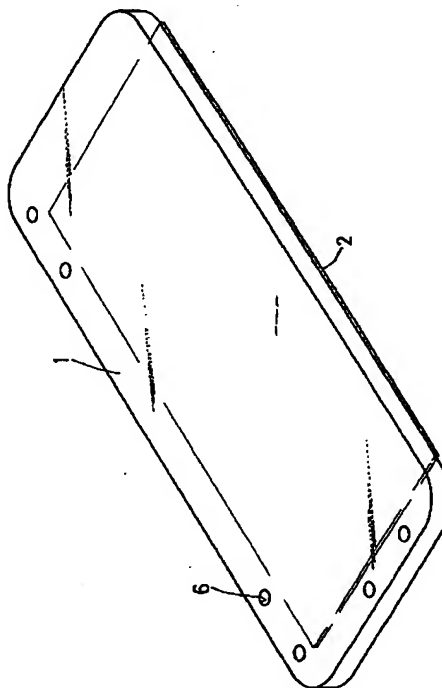
(74) 代理人 弁理士 鎌田 文二 (外2名)

(54) 【発明の名称】 乗用車用サンバイザー

(57) 【要約】

【課題】 死角を生じさせず、かつ、十分な遮光をおこなうことのできる乗用車用サンバイザーを提供する。

【解決手段】 乗用車のフロントガラスの上部縁に設けられ、車体と連結部を介して回転自在に取り付けられる乗用車用サンバイザーにおいて、透明板1の少なくとも一方の面、又は2枚の透明板1と透明板1の間に、可視光線透過率が3～10%のフィルム2を設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 乗用車のフロントガラスの上部縁に設けられ、車体と連結部を介して回転自在に取り付けられる乗用車用サンバイザーであって、透明板の少なくとも一方の面、又は 2 枚の透明板と透明板の間に、可視光線透過率が 3～10% のフィルムを設けてなることを特徴とする乗用車用サンバイザー。

【請求項 2】 乗用車のフロントガラスの上部縁に設けられ、車体と連結部を介して回転自在に取り付けられる乗用車用サンバイザーであって、可視光線透過率を 3～10% となるように着色剤を配合した透明板からなることを特徴とする乗用車用サンバイザー。

【請求項 3】 上記透明板をハーフミラーとしたことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の乗用車用サンバイザー。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】 この発明は、自動車、船舶や飛行機等に用いられる乗物用のサンバイザーに関し、詳しくは、自動車、特に乗用車に用いられる乗用車用サンバイザーに関する。

【0002】

【従来の技術】 一般的に、朝や夕方等の日差しが運転者等の目に入るとき、この日差しを避けるために、乗物用サンバイザーを運転者等の視界の上方にかかるように配置し、上記日差しを遮る。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上記乗物用サンバイザーは不透明な板が用いられているので、上記乗物用サンバイザーが配された部分の視界はゼロとなり、死角を生ずる。このため、交差点等において前方不注意が生じやすく、事故等の原因となりやすい。

【0004】 これに対し、フロントガラスの上端部に淡い色の遮光用フィルムが貼られた観光バス等においては、スライド式に取り付けられた淡い色を有する透明板がサンバイザーとして用いられている。

【0005】 しかし、上記淡い色を有する透明板は、上記遮光用フィルムとの相乗効果によって遮光が図られるものであり、乗用車のように、遮光用フィルムを貼ることのできないフロントガラスに用いた場合、可視光線透過率が高いため十分な遮光効果が得られず、乗物用サンバイザー本来の目的を達成しえない。

【0006】 そこで、この発明の課題は、死角を生じさせず、かつ、十分な遮光をおこなうことのできる乗用車用のサンバイザーを提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】 上記の課題を解決するため、第 1 の発明は、乗用車のフロントガラスの上部縁に設けられ、車体と連結部を介して回転自在に取り付けられる乗用車用サンバイザーであって、透明板の少なくと

も一方の面、又は 2 枚の透明板と透明板の間に、可視光線透過率が 3～10% のフィルムを設けたのである。

【0008】 また、第 2 の発明は、乗用車のフロントガラスの上部縁に設けられ、車体と連結部を介して回転自在に取り付けられる乗用車用サンバイザーであって、可視光線透過率を 3～10% となるように着色剤を配合した透明板としたのである。

【0009】 さらに、上記透明板をハーフミラーにすることができる。

【0010】 乗用車用サンバイザーとして、上記構成の板を用いるので、可視光線透過率を 3～10% 程度有しており、この乗用車用サンバイザーを通して前方を確認することが可能となり、かつ、日差しを遮ることができる。よって、上記乗用車用サンバイザーを用いても、死角が生ずることはなく、十分な遮光を行うことができる。

【0011】

【発明の実施の形態】 以下、この発明の実施形態を図面を参照して説明する。

【0012】 この発明にかかる乗用車用サンバイザーは、図 1 に示すように、透明板 1 の少なくとも 1 面に可視光線透過率が 3～10% のフィルム 2 を貼着したものである。

【0013】 この透明板 1 は、通常において透明と認識できる程度の透明性を有する板であればよく、また、その材質は、ガラス、樹脂等任意のものを使用することができる。

【0014】 上記フィルム 2 は、その色彩等は、特に限定されるものではなく、可視光線透過率 3～10% を有するものであればよい。このような例として、東レ（株）社製：ルミラー（商品名）（可視光線透過率 5%）をあげることができる。可視光線透過率が 3% 未満だと、乗用車用サンバイザーを通して前方が見にくくなり、死角が生じて安全性に欠けるからであり、10% を越え、日差しを遮る量が少なくなり、サンバイザーとしての役目を果たすことができなくなるからである。なお、可視光線透過率は、JIS A 5759 の方法で測定される。

【0015】 上記透明板 1 と上記フィルム 2 は、図 2（a）に示すように、透明板 1 の少なくとも一方の面に貼着されていればよい。また、図 2（b）に示すように、2 枚の透明板 1 を重ねて乗用車用サンバイザーとして用いる場合は、透明板 1 と透明板 1 の間に、フィルム 2 を挟み込んでもよい。

【0016】 さらに、図 2（c）に示すように、上記透明板 1 の一方の面に薄い金属膜 4 を有するハーフミラー 3 を用いることもできる。このとき、フィルム 2 は、ハーフミラー 3 の金属膜 4 を有する面と反対側の面に貼着することができる。金属膜 4 が複数枚の板の層間に挟み込まれてハーフミラーが構成されているときは、金属膜

の挟み込まれる層間以外の層間、または表面のいずれかにフィルム2を設ければよい。ハーフミラーは、マジックミラーとも呼ばれるが、このミラーを通した場合、明るい側から暗い側を見ると光が反射して鏡のようになるが、暗い側から明るい側を見ると光の反射は起こらず、このミラーを通して明るい側を見通すことができる。このことから、相対的に暗い車内から相対的に明るい車外に向かっては、上記ハーフミラー3を通して見通すことができ、上記ハーフミラー3にフィルム2を設けることにより、差し込む日差しを調整することができる。

【0017】次に、この発明にかかる乗用車用サンバイザーの他の実施形態について説明する。これは、図2

(d)に示すように、着色剤を配合した透明板1、すなわち着色板5を用いたものである。この着色剤は、色彩等、特に限定されるものではないが、着色板5としたとき、可視光線透過率が3~10%有すればよい。可視光線透過率が3%未満だと、乗用車用サンバイザーを通して前方が見にくくなり、死角を生じて安全性に欠けるからであり、10%を越えると、日差しを遮る量が少なくなるので、乗用車用サンバイザーとしての役目をはたすことができなくなるからである。

【0018】上記着色板5の材料としては、上記透明板1と同様の材料、すなわち、ガラス、樹脂等任意のものを使用することができる。また、上記着色板5の一面に金属膜を設けてハーフミラーとした着色板を用いることもできる。

【0019】上記のこの発明にかかるいずれの乗用車用サンバイザーも、そのフロントガラスの上部縁に、車体と連結部を介して回転自在に取り付けられる。上記の連結部に上記乗用車用サンバイザーを取り付けるためには、乗用車用サンバイザーに図1に示すような、接合部6が必要となるが、上記乗用車用サンバイザーに用いられる透明板1、ハーフミラー3や着色板5は、ガラスや樹脂等からできているので、接合部6を設けるための加工は容易である。

【0020】また、この発明にかかる乗用車用サンバイザーは、従来の乗用車に取り付けられている不透明板からなるサンバイザーを取り外して、その代わりに取り付けることができる。また、従来の不透明板からなるサンバイザーはそのまま、従来のサンバイザーの車体との

連結部側の側面部又は車体との連結部に、上記この発明にかかる乗用車用サンバイザーを取り付けるための連結部を設け、これを上記接合部6に取り付けることにより、従来の不透明板からなるサンバイザーを利用でき、かつ、この発明にかかる乗用車用サンバイザーをも利用できるように取り付けることもできる。

【0021】上記乗用車用サンバイザーは、観光バス等のようなスライド式にとりつけられないので、急ブレーキ等の振動によって上記乗用車用サンバイザーが下方にスライドして運転者の視界をいきなり遮るということは生じない。

【0022】この発明にかかる上記の乗用車用サンバイザーは、乗用車用以外の自動車、船舶や飛行機等の各種の乗物であって、そのフロントガラスに遮光用フィルムを貼らない乗物に対しても、全く同様に用いることができる。

【0023】

【発明の効果】この発明によれば、乗用車用サンバイザー自体が、可視光線透過率は3~10%程度有しているので、十分な遮光を行うことができ、かつ、この乗用車用サンバイザーを通して前方を確認することが可能となり、前方不注意がおこりにくく、事故等の発生原因を減らすことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明にかかる乗用車用サンバイザーの例を示す斜視図

【図2】(a)図1の側面図

(b)この発明にかかる乗用車用サンバイザーの他の例を示す側面図

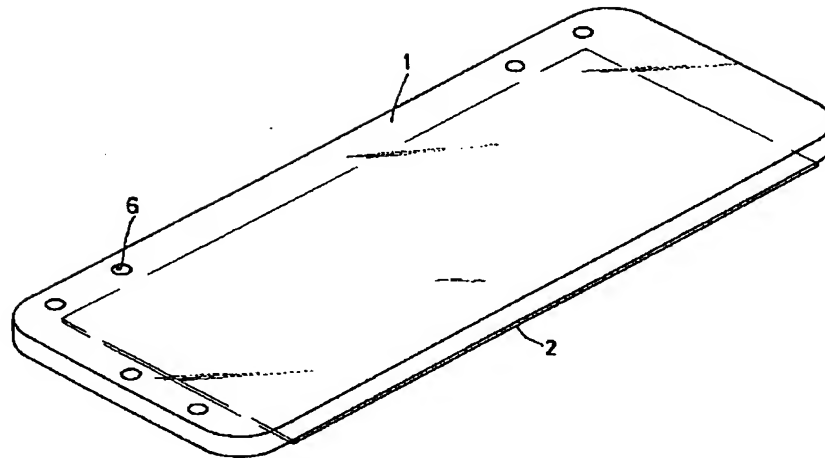
(c)この発明にかかる乗用車用サンバイザーの他の例を示す側面図

(d)この発明にかかる乗用車用サンバイザーの他の例を示す側面図

【符号の説明】

- 1 透明板
- 2 フィルム
- 3 ハーフミラー
- 4 金属膜
- 5 着色板
- 6 接合部

【図1】



【図2】

